様式２

# 令和５年度　不登校支援研究校　報告書　東原中学校

## １　学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

令和３年度から令和４年度にかけて長期欠席者については減少傾向にあるが，ふれあいひろばの利用生徒は増えている。

## ２　研究主題

個に応じた多様な場を提供する環境づくり，およびそれぞれの形で社会的自立を目指す生徒を育成する指導・支援の在り方

## ３　重点取組

※１の課題解決に向け、重点的に取り組む項目

⑴ 不登校等の早期発見および早期支援に向けた各種のアンケートの活用
⑵ 個別の支援計画等にもとづいて生徒の実態に合わせた手立ての設定や学習評価の実施
⑶ 不登校生徒やふれあいひろば利用生徒に対して ICT を活用した支援の実施

## ４　具体的な取組

※３の具体的な取組

⑴支持的風土の醸成に向けた学級経営を行うための工夫，hyper-QU 等の活用に向けた研修会の実施
⑵生徒の実態に応じた学習方法の提供（ドリルパーク等）や期間を設定しない単元テストの実施
⑶生徒の希望に合わせてリモート授業の実施，不登校生徒に対して定期的なリモート面談の実施

## ５　検証結果

※検証方法および結果

①不登校生徒，ふれあいひろば利用生徒の学習評価に関しては，自分のペースに合わせてできることで，できるところから取り組み，学習に進んで取り組むことのできる生徒も見られた。一方で，ノルマがないために，ほとんど取り組むことのできない生徒も見られた。
②リモート授業に関しては，不登校生徒については２割程度，ふれあいひろば利用生徒については３～４割程度の利用にとどまっていた。
③不登校生徒に対してのリモート面談は不登校生徒の約半数の生徒と実施でき，また面談の内容についても生徒の興味に合わせていくことで，定期的に実施でき効果が見られた。

## ６　研究成果

※成果・課題等

特に不登校生徒に対してのリモート面談は学校になかなか来ることのできない生徒と話をするための手段の１つとして効果的であったように感じた。この面談がきっかけとなって学校に行ってみようという気持ちになった生徒もいたので，可能であれば来年度以降も継続し，不登校生徒とコミュニケーションを図るための手段としていきたい。課題としては今年度は加配教員がいたことで時間の余裕があり実施できたが，授業をしながらだと難しいので，実施方法について考えることや，面談の内容・実施時間についても考えていく必要があることなどが挙げられる。